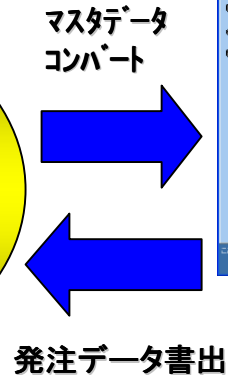


# 『伝助』発注書入力発行例「外貨為替レート計算対応」

- 海外に発注をするため、為替レート計算が必要。
- 基幹システムの『商品名(日本語)』ではなく、『Item名(英語)』を印字したい。
- 『Vender欄(得意先名・住所)』や『Description欄(商品名や備考など)』、  
その他、海外発注に必要な事項の記入用に、項目や文字数が必要。



Item	Description	Qty	Unit Price	Amount
		95.00		950.00
		8,529		85,290



海外取引先

通貨レートを元に、自動的にドル⇒円換算します。  
例 レート \$1=¥89.78  
UnitPrice欄に \$95.00 と入れると、単価 8529円に変換。

伝助からデータを書出して、販売管理システムの発注伝票に読み込ませます。

HEXARD  
HEXARD

「伝助」は株式会社ヘキサードの商標です。

## 海外の仕入先が多い場合には、為替マスタを用意すると便利です。

※基準通貨1に対して日本円でいくらのかを登録しておきます。

※例えば……

コード	基準通貨	為替レート
0001	USD(アメリカドル)	89.78
0002	CNY(中国元)	13.19
0003	KRW(韓国ウォン)	0.081 など

※二週間・一月など、ある程度の期間は同じレートを  
使うような運用が多いようです。

### A. 基幹システムの区分などを為替レート表として使う。

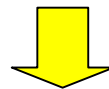
- ・基幹システムの得意先区分を修正するだけの手軽さ。
- ・集計などに使える区分を使ってしまう。  
(例、得意先区分1=為替レート、商品区分1 =通貨単位 など)

### B. 伝助に、為替レートマスタを追加する。

- ・基幹システムのマスタ項目は、他の目的に使用できます。
- ・Excelのような一覧表でメンテナンスできます。

※摘要欄などに、発注日のレートを記載することなども出来ます。

最低限、発注書発行(仕入入力)時の為替レート計算が簡単にできればよい  
とお考えでも、専用のシステムはどうしても高額になってしまいがちです。



伝助の入力機能の活用で、  
コストを抑えたシステム構築を。

HEXARD  
HEXARD

開発元: 株式会社ヘキサード TEL:03-5474-5711 URL:<http://www.hexard.co.jp>

HEXARD INC.